

## 2024 年度 傾斜的研究費（全学分）生成 AI 利用支援 研究報告書

【研究費区分】：生成 AI 利用支援

【所属】：国際センター

【氏名】：黒田史彦

【氏名フリガナ】：クロダフミヒコ

【職】：教授

【研究課題名】：日本語学習用「読み物」リソースの開発に向けた生成 AI の活用と GPTs の開発

【研究実績の概要】

・2023 年度から継続して、日本語学習者向け多読用「読み物」の開発に取り組んだ。特に、生成 AI とプロンプトの改善により、①「読み物」における語彙・文型の日本語レベルを制御する方策の検討、②リライト成果物である「読み物」に添えるイラストの作成、③昔話のリライト用にカスタマイズした GTPs（アプリケーション）の開発、という 3 点を研究課題に据えた。

①昨年度から引き続き、初級から上級レベルにわたって語彙・文型が調整できるプロンプトの作成に取り組んだ。事前に語彙・文型のリストを読み込ませることにより、当初の目標はほぼ達成できた。しかし、英語による語彙・文型のコントロールと同程度の精度は得られなかった。

②プロンプトの改善により、「読み物」としては差し障りのないイラスト作成はできた。ただし、登場人物や背景など、若干の違和感が残るものとなった。イラストにより顔つきが変わったり、背景がいささか日本風ではなかったりする点が、今後の検討課題である。棒人間のような単純な人物イラストであれば、比較的容易に様々なポーズを取らせ、期待通りのイラストが作成できるようになった。

③GPTs の開発に関しては、ChatGPT 本体の品質向上により、ほぼ必要性がなくなってしまった。そのため、「読み物」の作成や昔話のリライトに特化した GPTs を作成することはなかった。

ChatGPT や Copilot を始めとした生成 AI の技術は日々進化しており、そのアップデートに翻弄されることも少なくない。生成 AI の不備を補うべく工夫したプロンプトであっても、アップデートにより当該問題が解決されることにより、価値がなくなってしまうこともある。また、ChatGPT や Copilot 以外の生成 AI も普及してきており、「読み物」の作成により適した AI も見つかかりそうである。現状としては、「読み物」の作成や昔話のリライト程度であれば、比較的容易に誰でも達成することができる。今後は、単なる「読み物」の作成ではなく、日本語授業等における成果物の実践的活用、ないし、授業活動の一部として生成過程を組み込むような新しい工夫が必要であろう。